



新 臨床家のためのホメオパシー

# マテリア メディカ 上

THE ENCYCLOPEDIA OF HOMEOPATHIC MATERIA MEDICA

編著・森井啓二





新 臨床家のためのホメオパシー

# マテリア メディカ 下

THE ENCYCLOPEDIA OF HOMEOPATHIC MATERIA MEDICA

編著・森井啓二



新装改訂に寄せて

無垢な創造的エネルギーに満ちた大自然の中では、誰もがその美しさや偉大さ、そして神聖さに圧倒され、感動します。私たちも動物も草も木も鉱物も、すべてのものは等しく大自然の素材からできており、その自然を作り出した創造的エネルギーによって生きていることを実感するのです。

そしてそれ故、私たちに内在するエネルギーは自然界のエネルギーと同じものであり、心身のバランスを取り、あらゆる治癒力に通じる源に満ちています。太陽の暖かさや心の温かさ、大空に広がる空気と肺の空気、母なる海の水と身体の水分、河の水流と血液の流れ、身体を構成する素材と大地も同じもの。すなわち、外側の自然（Nature）も、内側の本性（Nature）も実は全く同じものなのです。

一方、私たちは、現代社会という自然界とは一步離れた枠組みの中で、現代の最先端の医学として主に肉体の機能の部分に集中した治療法、言い換えれば、病名を中心とした医療を目覚しく発展させてきました。ところがその結果、多くの疾患の治療が可能になった反面、ある種の疾患治療に対しては、副作用の問題や症状を抑圧することによる新たな病気の発現、また未病治療や予防に対する不完全さが見え始めるなど、その限界点や問題点も浮き彫りになってきました。

そのような流れの中で近年、これまでの病名を中心とした医療から、患者自身を中心とするオーダーメイド医療が、注目され始めています。病名中心の医療に頼っていたころの私たちは、自分の身体の声に耳を傾けることをしてきませんでした。しかし、現代医療の欠点を補うように、自分の身体の声に耳を傾けることを試み、自己治癒力を重要視した治療を希望する人が増え、それにとまって伝統医療や代替補完療法への期待と需要が急増してきているのです。

そもそも病気とは、目に見えないエネルギー領域の歪みによって起こり、肉体に表現されてくるもの。今までの医療のように、物質的な観点から症状を消すというアプローチだけでは不十分だったのです。

私たちはエネルギー体でできていて、その表現型として肉体を授かっています。多くの方が神性さを見失い、病気を繰り返してしまうのは、本来分かつことのできない自分自身と本物の自然界との関係、自然界のエネルギーとの調和を自ら断ち切ったことも大きく影響しています。

私たちは、もっと目に見えない領域にも意識を向け、より深い治療を目指すべきです。理想的な治療は、肉体とエネルギー体の両方を調和させることによって得られます。現代医療の優れた部分と、伝統医療やホメオパシーに代表される自然の摂理に沿った医療の優れた部分を統合することにより、よりよい患者中心の医療が実現可能となります。

この世界的な大きな流れが、今後の医療の主流となっていくことは確実です。私たちは今、これらの優れた統合医療を学び発展させていく絶好の機会を得ています。肉体を修復する優れた治療法の一つが外科手術であるならば、エネルギー体を治癒に導く最も優れた治療法の一つがホメオパシーです。ホメオパシーは、大自然の波動をそのまま心身の波動と共鳴させることにより、調和をとっていくものだからです。

ホメオパシーの基本は、マテリアメディカにあります。ここにはレメディの詳細な情報や特徴が記載されており、各レメディについて熟知することは、ホメオパシー治療において何よりも重要な土台となります。

このことは、基礎の土台を正しく大きく丈夫にするほど、大きな塔が建てられるのに喩えることができます。土台が小さく不安定であれば、高い塔をまっすぐに建てることはできません。ホメオパシーでも、臨床の現場において正しく応用し治療法をより発展させていくためには、まずマテリアメディカの知識という基礎の土台を正しくしっかりと確立することが大切です。

樹木も根がしっかりと深くまで拡がれば、大きく立派に生長し美しい花が咲きます。ホメオパシーはエネルギー医療の一つとして、今後さらに発展していく分野です。正しい基礎知識の土台を作り上げることは、今後の発展に重要な役割を果たすことでしょう。

私たちは肉体だけではなく、魂と心と体が三位一体となった存在です。これらすべてのレベルにおいて調和のとれた状態が真の健康と言えます。是非とも真の健康のために、積極的にホメオパシーを学んでいただきたいと思います。

2020年2月

森井啓二

NUPHAR LUTEUM ナイフコウホウキョウ ヲノメ LEQUIMINOSAE

Nigella arvensis L. [ ED ]



BACKGROUND
Nigella arvensis は、欧州、北アフリカ、西アジアなどに広く分布するスズリ科の水生植物で...

Table with 2 columns: 効果 (Effects) and 注意 (Notes) for Nigella arvensis.

LUNA ムーン



BACKGROUND
Luna は、ローマ神話に登場する月の女神で、...

NUX MOSCHATA ナツメ ナツメ科 LEQUIMINOSAE

Mycosphaerella Botrytis [ 胃中の強い酸臭と知覚の喪失 ]



DIGITALIS PURPUREA ジギタリス ナツメ科 PLANTAGINACEAE

Digitalis purpurea L. [ 有毒薬 ]



BACKGROUND
Digitalis purpurea は、西洋ヨーロッパ原産の多年草で、...

効果
強心薬として用いられ、心臓のポンプ機能を...

注意
中毒症状として吐き気、嘔吐、めまい、視力障害、...

LAC LEONINUM ライオン科 FELIDAE

Leontideus [ グループのリーダー ]

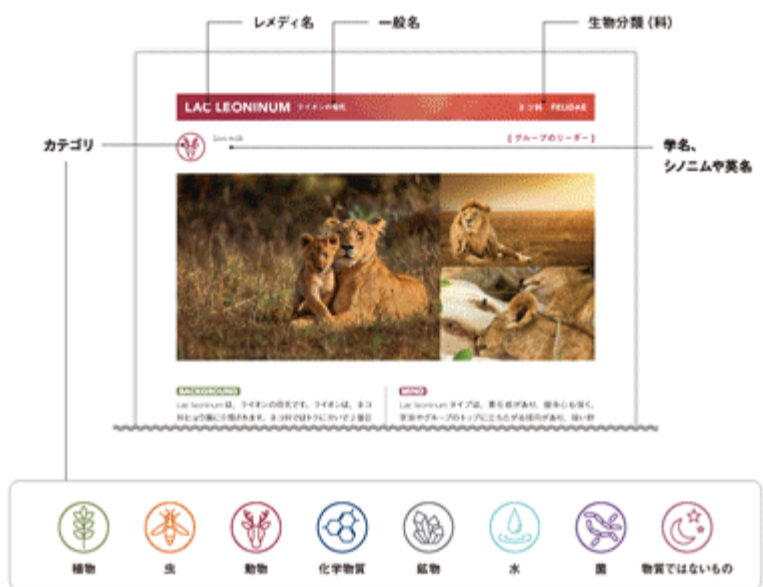


BACKGROUND
Lac leoninum は、ライオンの唾液です。ライオンは、...

効果
強心作用があり、心臓のポンプ機能を...



本書の構成



- BACKGROUND: レメディ原料に関する一般概説
MATERIAL: レメディの原材料
FIRST PROVING: 最初にホメオパシーに導入した人物、文献、年代
MIND: レメディの精神項目
AFFINITY: 親和性
HOMEOPATHIC: レメディ像
CLINICAL APPLICATIONS: 臨床適用
MODALITY: 症状に影響する要因
好転: 好転する要因
悪化: 悪化する要因
FOOD & DRINK: 嗜好性
効果: 悪化
欲求: 嫌悪
RELATIONS: 関連レメディ
NOTE: 臨床の中で記入できる欄を設けました。お役立てください。



Ambergris

【音や音楽に非常に敏感】

**BACKGROUND****背景**

Ambra grisea は、マッコウクジラ科マッコウクジラ *Physeter* 属の雄のマッコウクジラ (*Physeter macrocephalus*) の腸内、特に盲腸部のできる結石様分泌物のことです。一般的に龍涎香と呼ばれています。龍涎香(アンバークリス)は、麝香と並び古くから香料中の至宝とされてきました。龍涎香は、マッコウクジラの体内から排出されて静かに海上を漂っていたり、波打ち際に漂着したものが時に発見される、あるいは死んだマッコウクジラが海岸に打ち上げられた場合に採取するといわれますが、非常に高価なものとされています。かつては捕鯨の際、鯨の解体中に採取されていましたが、1987年3月をもって商業捕鯨は禁止されて以来、この方法による採取は困難となりました。

**龍涎香の性状**

龍涎香は、主に塊状の塊で、小さなものでは1kgから、巨大なものまで100kgと、その重さ、形はさまざまです。大ききの記録で最も重いものは、東インド会社の記録で、1880年に取引された928ポンド(約421kg)というものです。これだけ巨大なものが腸に詰まっていたことになります。

匂いも、品質に応じて、ひどく生臭い悪臭から、青臭い匂い、カビ臭い匂い、海の匂い、麝香のまざったような海の香りへと変化していきます。龍涎香原物そのままでは芳香とはいえませんが、乾燥させて乳糖を加え、微量をアルコールに浸し

て燻やすと、溫和で高尚な香りがします。その香りは、抹香というモクレン科のシキミの葉を粉にして作ったお香に似ています。日本語のマッコウクジラの由来は、このクジラから取れる龍涎香の香りが抹香のものに似ているからです。

**生因**

龍涎香は、病的分泌物とされていますが、その生因は明らかにされていません。龍涎香の中にイカのくちばしやあごの骨など未消化物があることから、クジラがイカを多食した後、不消化物が胃腸を刺激して生ずるという説、糞石という説、寄生虫などが関連した病的産物という説、小腸後端部にあるクチクラの内層からの分泌物によって形成されたという説などがあります。

また、雄のマッコウクジラは繁殖期には食物をとらず、したがって、腸の蠕動運動も停滞しているので、糞が排泄されずに盲腸にたまり、分泌物とともに変化して形成されるのではないかと考えられています。

そして、春先に繁殖期が終わって餌を食べようになると、たまった糞が一時に排出されるので、海に浮いたり浜辺に打ち上がったりのごらうと考えられます。龍涎香の多くは、アフリカ、インド、日本、スマトラ、ニュージーランド、ブラジルなどの海上で発見されています。捕鯨国日本および旧ソビエトが最大の産地です。天然の精製をしない龍涎香は決してよい匂いとはいえず、長期間海上を漂流した未消化物のなれものが珍重されます。

## 産率

龍涎香は、全ての雄のマッコウクジラの腸内に龍涎香があるわけではなく、発見できる産率は、およそ1%以下ともいわれています。数百頭のマッコウクジラを捕獲しても、全く見つからなかったこともあるそうです。1841年から1914年までの間にアメリカの捕鯨漁船が全盛期だった73年間に採取された龍涎香の総量はたったの2トンほどでした。年間およそ27kg前後ということになります。

現在では、再びほとんどの捕鯨船が出来なくなり、非常に希少価値のあるものになりました。

## 品質

龍涎香は無光沢な蠟状のかたまりで、色は黄色味を帯びた灰色、灰色、黒色などのものがあります。それぞれgolden, grey, blackなどの等級がつけられており、灰色、あるいはマッコウクジラの腸内から採取した黒色で柔らかいものBlackは、品質が劣るとされています。他の動物性香料と違い、排泄物臭や刺激臭がありません。長期間海上を浮遊した、黄金色を帯びているものが最高級品とされています。龍涎香の主成分である無臭で非揮発性の白色固体アンブレインは、酸化すると芳香を放ちます。そのため、長期間海上を浮遊したものが、酸化が進んでいるので高品質になります。海上を浮遊しているうちに強い放射線や空気、海水に晒されてゆっくりと性状が変化していきます。淡い金色になったものが最高級のGoldenですが、この金色の中でも白黒のような色をしたものが、さらに最高級とされています。

英語名のAmberは、アラビア語のアンバルに由来し、その後この龍涎香に似た琥珀もアンバーと呼ばれるようになりました。

## 薬効と成分

龍涎香は、麝香と並び古くから貴重な香料として香水や高級化粧品に使われてきたほかに、薬効があり、カタルや神経症をはじめさまざまな疾患に効くとされ、刺激剤であり、とくに娯薬として用いられてきました。しかしながら、中世の頃に信じられてきた多くの薬効は、医学的にも現代では指示されていません。しかしながら、この龍涎香を他の香料と混ぜることによって、香料全体の蒸散を抑えて香りを保つ働きがあるために、香りが長持ちします。

龍涎香の主成分はアンブレインですが、これが酸化分解されてできる、アンブロキササンやアンブリノールが香りの本体です。他にも、エビコプロステロールや安息香酸、コレステロール、ジヒドロコレステロール、各種ミネラルなどが含まれています。

## 歴史

古代のアラビアでは、龍涎香は、海岸沿いに生えている樹木の根が海中地底まで深く伸び、底から出た樹脂が固まって海中にだされたものであると推測された時代がありました。龍涎香は、かなり古くから珍重され、古代ギリシャや古代ローマ時代にすでに高価で取引されていた記録があります。一方東洋での古くからの言い伝えでは、西方の彼方にある龍の住み息があり、春の交配時期になると龍が交尾を行い、そのときに滴り落ちる涎が固まり、海中に漂流されるという伝説が残されています。どちらにしても、龍涎香は海岸に稀に漂着する希少な物質でした。東インド会社に残された記録では、非常に高い価格であったとされています。また、10世紀頃には、純金とはほぼ同じ価格で取引されていたそうです。

その希少価値から、世界各地でさまざまな薬効があるとして、てんかんやチフスなどの特效薬とされたほか、さまざまな疾患に対して用いられてきました。さらにアラビアのハーレムや中国皇帝の後宮においては、娯薬として使われていたそうです。また、中国では、不老長寿の薬として、13世紀の頃にはアフリカにまで遠征隊を派遣したとも伝えられています。

17世紀以降のヨーロッパ貴族の間では、しばしば使われたらしく、ルイ15世の妃マダム・デュ・バリは、龍涎香の香りを好んだと伝えられています。また18世紀のフランスの貴族の間では、龍涎香の入ったハッドロップを舐めて口臭予防をしていたと言われています。フランスの料理評論家であるブリヤッサヴァラン Brillat Savarin氏は著書「Physiologie du Gout」の中で、気付け薬として龍涎香入りのホットチョコレートを飲むようにと記載しています。またサヴァランの友人には、勃起不全の回復薬として、タマネギ、ニンジン、パセリ、砂糖に龍涎香を20g加えたスープを肉とともに食べることを勧めています。

クジラの腸内由来だと広く知られるようになったのは、17世紀後半から18世紀の前半だと言われています。

## 日本における歴史

日本でも、中国から知られていた通り、古くから龍涎香は知られていたとされています。

1697年(元禄10年)人見大・元浩が著した「本朝食鑑」では、龍涎香は麝の糞とし、香油や砲硝の治療薬とされ、薩摩の海上に浮かんでいることがあると記載されています。1808年(文化5年)大槻清準が著した「驗史編」の中では、龍涎香は麝の腸を用いるとの記載が見られました。この頃には、実際に腸を使った贋物が出回っていたため、本物と混同したふしがあります。

1829年(文政12年)小野蘭山著の「本草綱目啓蒙」では、龍涎香の入手について、九州では海上に浮遊していること、肥前平戸、土佐羽根浦、紀州熊野三輪崎、太地浦な

どではマッコウクジラの腹を開いて採取することが記述されています。

1833年(天保4年)本草学者である小原桃洞(1746~1824)の『桃洞遺筆』には、龍涎香は俗に鯨の糞と呼ばれるが、実際は腸内に形成された結石であり、鯨の中でもマッコウクジラにのみ見つかること、塊の中には烏賊の嘴が含まれること、さらに龍涎香の処理方法や種類、マッコウクジラの脳で作られた薬物についてなど、詳細な記述が記載されています。

1779年には、長崎で龍涎香に関わる事件が記録されています。倒れていた唐人を助けた男が、その唐人から龍涎香を分けてくれるよう強く要望され、男は龍涎香750gと半次人参を交換し売ったとして、長崎奉行に連行され、死罪になっています。

## 漢方

漢方では、龍涎香、または竜涎香と称します。理気、化痰、開閉、通淋の効能があり、咳嗽などの気逆や胸腹部痛、排尿障害、意識障害などの治療に用いられます。

## ノストラダムス

16世紀のフランスの医師であり、予言者としても有名なノストラダムス(Michel de Nostredame: 1503年12月14日~1566年7月2日)は、彼のほとんどの処方に好んでこの龍涎香を加えています。ノストラダムスは、「龍涎香は重要な成分の1つで、この香に匹敵するものは無く、それは大いなる喜びをもたらし、充分な価値がある。」と述べています。

なかでも万能香油の処方では、この香油の素晴らしい芳香は、世界中のどうにも存在しない、いかなる医師でも処方できないだろうと述べています。調合法は、とても長いものですが、原料としては、龍涎香12オンス、麝香4オンス、クローブ8オンス、シナモンの内皮4オンス、スマレの根2オンス、ナルデ(甘松)1オンス、野生オリーブの材8オンスを使います。この香油は、不妊症の特効薬であり、縮薬としても使い、香水として利用すると、周囲の有害な気を消し去ると記しています。

## マッコウクジラ

マッコウクジラは、ハクジラ類最大のクジラです。性別によって体長に大きく差が見られ、雌の体重は雄のはほぼ半分しかありません。最大のもので、雄は約18m、体重約57t、雌は約13mで体重約40tになります。頭部が大きく、成熟雌では体長の3分の1に達する個体もあります。

頭部は体長の約30%近くに達します。頭部は、丸みを帯びた直方体をしています。成熟した雄の頭には、8~15cm間隔の大きな傷がよく見られますが、これは成熟雄の歯の間隔に一致することから、雄同士の咬み傷跡と推測されてい

ます。そのため、繁殖海域にいる成熟雌には、新しい傷が見られません。この傷は、成長と共に増加します。この平行傷の多さと睾丸の重量には、相関関係が見られます。

下顎は、細長く体状で、40~56本の犬歯状の機能歯を持ち、上顎にはそれがおさまるくぼみがあります。上顎の歯は退化して、ほとんどが肉肉中に埋没しています。

属名 *Physeter* は噴水という意味で、頭部上の左先端の噴気孔から高さ5mも吹き上げることに由来しています。この噴気孔は、外鼻孔ですが、左右の鼻道が開口部直前で連結され、ひとつの孔になっています。

英名のマッコウクジラの頭部にある乳液状の脳油が精液(sperm)に似ていることから sperm whale と呼ばれています。この脳油は、脳油袋に入っており、音波を発射する際のレンズの役目と、浮力を調節する役目を果たしています。

眼は、口角のやや斜め後方の頭骨の1番幅の広いやや隆起した場所についています。視覚は大きな頭部のために、あまり重要な役割を果たしていないと推測されています。視覚よりも発達しているのが、聴覚ですが、耳たぶは進化の過程で消失し、眼の斜め下後方30~60cmの位置に非常に小さな孔として存在しています。

胸びれは、ウチワ状で体長に比較して、約8~12%とやや小さめです。背びれは、背中の中心線の皮膚が隆起した状態になっていて、その後方には数個のコブ状の小隆起があります。背びれの緑の皮膚の硬結したものは、成熟した雌だけに見られます。

尾びれは、底辺の広い二等辺三角形状で、幅は体長の約25%に達します。

## 分布

マッコウクジラの分布は、雄と雌の分布が極端に違います。雄は熱帯から極海まで、広い範囲に分布しますが、雌と子供たちは10~40歳の母系集団を作り、表面水温が15℃以上の海域に留まります。成熟した雄は、交尾期になると低緯度の繁殖海域に戻り、短期間群れに参加します。繁殖育児群に合流する時間は、数時間から数日と言われています。交尾の終わった雄はすぐに、群れを離れ、次の群れを探します。

## 食性

マッコウクジラの食性は、主な主食であるイカ類をはじめ、エイ、サメ、アンコウ、タラ、メヌケなどがあります。胃の内容物の調査では、頭足類が少なくとも56種類、魚類は68種類見つかっています。全長12m、体重200kgのダイオウイカが胃の中から見つかった例もあります。

マッコウクジラは常に採食し、1日に体重の3~3.5%の量を食べると推定されています。

## 繁殖と成長

マッコウクジラは繁殖率が低く、3～5年に1回、15カ月前後の妊娠期間を経て、体長4m前後の子供を1頭産みます。1.5～3年間授乳します。授乳中の乳首は、直径7～8cm、長さは5cm程度に突出します。新生児は口の脇に乳首をくわえて乳を飲みます。乳汁は非常に濃く、黄色味がかったクリーム色をしています。脂肪分が多く、20～30%は含まれています。この脂肪分割合は、授乳後期には減少していきます。

性成熟は歳で平均7～13歳、体長約9m、雄で10～30歳、体長約14m、雌の成長は35～60歳まで続くようです。

## 潜水

マッコウクジラはその潜水能力において、クジラ類のなかでは最も深く、長く潜水できるクジラです。胃の内容物からの推定では、水深3,200m以上潜れると言われています。1回の潜水時間は20～50分、最高1時間半におよぶこともあります。眼は真横しか見えず、波長0.2～32kHzのクリック音をソナー代わりに使用し、聴覚は優れています。

## ネイチャーエッセンス

クジラのエッセンスは、PFI essences や Pacific flower essences など、いくつか作られています。これらのエッセンスは、個人を超えてより大きな視点から物事を遠観したり、高次の意識へと繋がる助けや、大自然との繋がりを理解する助けに使用されています。

## MATERIAL

龍涎香

## FIRST PROVING

ハーネマン (Materia Medica Pura 第6巻)

## AFFINITY

神経系(迷走神経、太陽神経叢、脊髄)、循環器系、精神、女性生殖器等に親和性があります。

## HOMEOPATHIC

Ambra grisea は、実際にその匂いを嗅ぐとわかるのですが、自己の内面へと入りこみやすい香りを持っています。このタイプは、非常に内気で赤面しやすく、知らない人に合うのを極端に嫌います。気分屋で怒りっぽかったり、ひどく落ち込んだりします。納得のいかないことがあると、自分自身の世界に入り込み、いつまでもよくよと考える傾向があります。非常に神経質で、すぐに興奮したり、動揺したり、落ち込んでしまいます。マッコウクジラは、音に敏感ですが、このタイプも音や騒音、臭いに特に敏感で、

音楽に対しては異常に過敏に反応してしまいます。音楽を聴くと泣いてしまうことがあります。外に向かって自己表現や自己主張することが出来ません。それは、自分の中に持っている「何か人に見せたくない汚い部分」が出てしまうのではないかという不安感を根底に持っていることも原因の一つになっています。これは、マッコウクジラの腸内に龍涎香の塊りが存在していることに象徴されています。人と話をしたり、議論することが苦手なために、つい無口になりがちで、その分自分の頭の中で会話してしまう傾向があります。人前に出ることも嫌います。仲間といっしょにいるよりも、1人でいることの方が好きです。人が近くにいるときには、排便や排尿することさえできませんので、団体生活やキャンプなどはたいへんです。これは、1頭で海を回遊するクジラが体内の龍涎香を海中に放出することに象徴されています。排出行為は人に見られるべきではないと感じています。

それでも、人と接していたいという潜在的欲求はありますので、性的な考えを持つこともあります。龍涎香は古くから性的な衝動を高めるために利用されてきたことと関連付けられるかもしれません。しかし、自分の恥かしい部分を晒したくないという思いから、人と上手く関係を結びにくい、自分の世界の中で妄想しながら、自慰を止められなくなることもあります。過度の自慰に罪悪感のようなものを感じることもあります。精神的な能力は低めで、物事を理解するのに時間がかかり、何度も繰り返して覚える必要があります。よくあれこれ妄想し、忘れっぽく、話題がころころ変わります。

Ambra grisea の臨床適用は、主に精神や感情に対する疾患に適用され、次のようなものになります。特に若齢者や高齢者で、内向的で自己表現できない人にはよく使用されます。また、貧血や睡眠不足に加えて過労や高齢などで体力が弱っている場合にもよく反応します。

精神、神経系では、不眠症になりやすく、気が高まっていて眠れません。ベッドに入った途端に眠気が消えてしまいます。特に会話をした後では、目が冴えてしまいます。またわずかな騒音や刺激でも気になって眠れません。特に音や音楽には非常に敏感です。心配な問題があると、落ち着かず、ベッドにじっとしていることも出来ません。マッコウクジラが深い海に潜っていくように、このタイプも静寂を好みます。

特に、非常におしゃべりになることがあります。また神経質な面があり、他人がいる場所で排便、排尿が出来ません。入院している場合でも、看護婦が補助すると排便できません。

呼吸器循環器系にも影響を及ぼします。咳は、音楽や騒音、会話、重いものを持ち上げることで悪化します。おくびの後に咳がでることもあります(Sang)。性交時にも



悪化します。神経質になると乾いた発作性の咳が出ます。人前でも症状が悪化します。

動悸が起こり、胸に何か引っかかっているような、閉塞しているような圧迫感を伴います。

喘息では特に高齢者と若齢者に重要です。

胃と腹部の膨満感や不快感は、真夜中過ぎに起こります。腹部は冷たい感じがします。食後に咳が出たり、食べた物が消化されないような感覚があります。ガスもよく出ます。牛乳を飲むと胸焼け感があります。

月経周期の出血が起こり、硬い排便をしたり、ちょっと長く歩いたりすると悪化します。子宮の症状は、横になると悪化する傾向があります。性欲は、亢進することがあります。

外陰部の炎症；痛みと腫れを伴う痒みがあります。

頭痛；頭の上半分が引き裂かれるように痛みます。手や指の有病性産婆では、何かを掴むと悪化します。

このレメディは、IgnatiaやBaryta carb. Moschusの作用を助けます。また症例によってさらに深い作用のレメディ(Natrum muriaticumやPhosphorusなど)が必要になります。

## CLINICAL APPLICATIONS

Ambra griseaの臨床適用は、主に精神や感情に対する疾患に適用され、次のようなものになります。特に若齢者や高齢者にはよく使用されます。また、貧血や睡眠不足に加えて過労や高齢などで体力が弱っている場合にもよく反応します。

### ■ 精神、神経系

- ・不眠症；気が高まっていて眠れません。ベッドに入って遠くで眠気が消えてしまいます。またわずかな騒音や刺激でも眠れません。特に音や音楽には非常に敏感です。心配な問題があると、ベッドにじっとしていることも出来ません。マッコウクジラが深い海に潜っていくように、このタイプも静寂を好みます。
- ・不安症・うつ病・ヒステリー；非常におしゃべりになることがあります。また神経質な面があり、他人がいる場所で排便、排尿ができません。入院している場合でも、看護婦が補助すると排便できません。
- ・自律神経の障害
- ・高齢者の眩暈

### ■ 呼吸器循環器系

- ・咳；音楽や騒音、会話、重いものを持ち上げることで悪化します。おくびの後に咳が出ることもあります(Sangl)。性交時にも悪化します。神経質になると乾いた発作性の咳が出ます。人前でも症状が悪化します。
- ・動悸；胸に何か引っかかっているような、閉塞しているよう

な圧迫感を伴います。

- ・喘息；特に高齢者と若齢者。

### ■ 消化器系

- ・胃と腹部の膨満；真夜中過ぎに起こります。腹部は冷たい感じがします。食後に咳が出たり、食べた物が消化されないような感覚があります。ガスもよく出ます。牛乳を飲むと胸焼け感があります。

### ■ 生殖器系

- ・月経間症候群；月経周期の出血。硬い排便をしたり、ちょっと長く歩いたりすると悪化します。子宮の症状は、横になると悪化します。
- ・外陰部の炎症；痛みと腫れを伴う痒みがあります。
- ・不正子宮出血
- ・女性の性欲亢進症

### ■ その他

- ・頭痛；頭の上半分が引き裂かれるように痛みます。
- ・手や指の有病性産婆；何かを掴むと悪化します。

このレメディは、IgnatiaやBaryta carbonica. Moschusの作用を助けます。また症例によって、さらに深い作用のレメディ(Natrum muriaticumやPhosphorusなど)が必要になります。

## MODALITY

### 好転 ●

歩くこと、戸外での散歩、ベッドから起き上がること、起き上がること、横になること、食事、外気、飲み込むこと、動くこと、持続した動き、寒さ、患部を下にして寝ること、おくび、朝食後、夕食、1人になること、睡眠、座ること、揺くこと、驚ること、マッサージ、マッコウクジラのように外気の下でのゆっくりとした動き、冷たい飲物、室内、休息、発汗、入浴、冷水浴など

### 悪化 ●

会話、話をする事、音楽、音、春、目覚め時、座ること、起き上がること、午前5～9時、午前9時～午後12時、午後1～6時、午後6～9時、午後9時～午前5時、労働、感情的ストレス、人の混雑している場所、ベッドの中、ベッドに入る事、暖かさ、触られること、暖かい室内、休息、読書、圧迫、妊娠、横になること、陣間風、暑くなる時、恐怖、悲嘆、不安、放屁、絶食、おくび、鼻をかむこと、外気、室内の空気、人の多い室内、圧迫、書くこと、排便後、騒音、旅行、仮眠、太陽、光、日光、笑うこと、暖かい牛乳、恥ずかしい思いをすること、物を掴むこと、呼吸、夕食、肢

を細むこと、寒さ、深呼吸、睡むこと、顔を洗うこと、入浴、暖かい空気、冷氣など

## FOOD & DRINK

### 改善 ☺

冷たい食物、冷たい飲み物

### 嫌悪 ☹

脂っこい物

### 欲求 ☹

塩分の濃い食物

### 悪化 ●

温かい食物、温かい飲み物、生もの、牛乳・乳製品、アルコール飲料、ワイン、スープ

## RELATIONS

Antidoted by: camph., coff., nux-v., puls., staph.

Followed well by: lyc., mosch., puls., sep., sulph., valer.

Complementary remedies: Calc., Caust., Ign., Lyc., mosch., nat-m., Phos., Puls., Rhus-t., SEP., Sil., SULPH.

Similar: agar, ars, asaf, aven, bar-c., Bell, bow, Bry, calc., castor-eq, CAUST., chin, Chinin-s., Cimic, coca, Coff, Con., croc, gels, hyos., IGN., Kali-br., lach, lil-t., lyc., Merc., MOSCH., nat-c., nat-m., Nux-v., op., ox-ac, ph-ac., PHOS., Puls., rhus-t., sep., SIL., staph, succ-ac, sul-ac, Sulph, sumb, Valer, verat., Zinc

## NOTE

### 関連生薬

**鯨鯨 (ゲイロウ)** (英) Spermaceti (独) Walrat  
鯨類は、マッコウクジラの頸部の上部にある油腺室の鯨脂油です。これを採取し、空気に晒して冷やすことにより鯨成分が固まります。この固結した油の塊を圧搾することにより、油分であるマッコウ鯨油と鯨を分離します。この鯨は、熱湯で洗浄し、希アルカリで処理した後、再結晶させて精製します。精製したものは、白色で表面が真珠様の光沢があります。内部は、結晶が線維状に配列し、破砕しやすい構造をしています。わずかに香りがします。融点は、42～50℃で、水に溶けません。主な成分には、cetio/cetyl palmitate)、遊離の cetyl, decyl, tetradecyl-, octadecyl-, alcohol とそれらの lauric, myristic, palmitic, stearic acid エステルなどがあります。

鯨脂は、医薬品の軟膏基材に用いられることがあります。

### 関連レメディ

**Lac delphinium** 大西洋バンドウイルカの母乳

**Delphinus amazonicus** アマゾン川河口に生息するアマゾンカワイルカの皮膚

**Balaenoptera acutorostrata** ナミンククジラ

**Balaenoptera musculus** シロナガスクジラ

**Inia geoffrensis** アマゾンカワイルカ

**Orcinus orca** オルカ

### 関連エッセンス

**Amazonadolphin** アマゾンカワイルカのPHIエッセンス

**Delph** イルカのPHIエッセンス

**Wal** ヒレナガゾンドウクジラのPHIエッセンス

**Pacific essence Whale** コビレゾンドウクジラのエッセンス

**Pacific essence Dolphin** ハシナガイルカのエッセンス